



十
論
爲
辯
抄
中



十論の辨お中

第四段

渡部 ね編

虚実、變、白馬、系道訓、よ、た、し、く、虚、實、の、變、
 つ、り、天、地、自、然、の、り、た、り、て、儒、教、の、道、の、
 揚、つ、皇、孫、異、い、り、て、い、り、以、雅、く、言、連、の、
 る、い、と、い、ふ、し、變、よ、あ、つ、い、と、い、ふ、お、あ、い、と、あ、
 名、と、重、く、い、い、え、と、あ、ら、る、と、い、ふ、い、と、
 つ、り、り、も、る、の、速、流、^{スナハ}、い、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、
 名、を、あ、り、た、れ、と、い、ふ、の、流、は、禪、家、の、門、の、
 一、地、と、い、ふ、訓、練、の、和、と、い、ふ、と、い、ふ、い、と、
 の、い、は、り、の、い、た、れ、と、い、ふ、後、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

変のありありに於ては瞻前忽後の誘ひと
 ありて誠といへ人の短有ありて孔子の撰集
 の虚交自在あるに返るべくいふはよくある
 孔子の残念とあると一と一と虚交の代文と
 或と管仲と評して家残子何於旅自而無
 憂色是知推命也事所射君通於愛
 也といふことありて虚交の時よりいへ
 権と変との認めらるべきも稱鑑といへ
 一と一と孔子と偏居の親に仕立らるる誠と
 二程の比らるるといふに於て一貫物と知者と
 可與との二章とありて子路とやうな諸文
 ありて與權の二より道の推謀ありといへ

といふるくの謀計ありてその論語の正権の
 けり子原道の虚交ありて人やらむこと何れ
 といへば一儒術を在の系ゆとていへる虚
 交といへ我が家の一大よりて道と一子の信と
 といへるを徳と世説と十論の大綱といへ
 言に虚交の言あるよりとていへるに何れ
 世にちるるといへる一
 勸懲先後 師説と勸善懲惡といふは師家
 の教誡といふはあつてん教と誡といふは二
 の勸と懲といふは二用ありていへるは師
 善惡の改めとせりて徳とといへて人を
 といへる地獄といへる人といへるは徳

大正新編

美西の情とさけり丹有る遠年のごとく
さしあ子路に進ちんつやいさこらりて教誡
詞の書見討とちる一ちりる先後の詞と
さしあしき美ささきとちる教作さふい
醫者の配劑と補浮の配とささきとちる危
くち益氣湯とめりいささき

孔子、牛刀 先後おの大略と儒行に孔子の和
舜の弦子と鑑あれと子游と武城の一篇と
大小の舞とささきとちる耳聞のささきと
ささきとちるねあれと孔子とちるねあ
ささきの抄と史記しけ殿の結文あり孔子
以厚子游羽可於文學子とちるささきと今の朱喜書

註をたれのとちる此結文も及るし例に致す
の塩梅とさけり夫子深喜のささきと子游の正
對しとささきとちる孔子とあやささきとちる
け趣と茶話禪も禪家の商量といささきとちる
ささきとちる趙州の向答と僧向一物不將來時如何
州曰放下着僧曰已是一物不將來放下這付
麼州曰恁麼則擔取去はてささきとちる子游
ささきとちるささきとちる所近とささきとちる
はてささきとちるささきとちる同の裏とささきとちる
人よの甲とささきとちる面くの自ささきとちるささきと
百人の険崖とささきとちる放ちるささきとちるささきと
も趙州も合ささきとちるささきとちるささきとちるささきと

實とちり一のり律や多とりの一層とちりなる
むらり層とちり一実とちりもつる教化の意の
大りあるいやむらり師才の初徴も君父の
訓諫もつる入る層の石とりの一もつとちり
むらり一師才の信勸もつる一もつとちり
母必母固 一貫おの四絶の論一傳つよははせり
ききつるつとちり末代の學者衆の異端とせり
つる群の富言とつる一もつる師才の言とつる
こととちりつるつるつる一層の言とつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつる
とつるつるつるつるつるつるつるつるつる
固とつるつるつるつるつるつるつるつる

一ものちちち地あるつると一つるつるつるつるの
大り仁美れもあつるつるつるつるつるつる
あつるつるつるつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
為^{ニト}信^ト疾^ト固^ト也^トとつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
一仲尼^ト不^レ為^レ己^ト甚^ト者^ト也^ト言^フ不^レ必^ト信^ト行^ト不^レ必^ト
果^ト惟^ト義^ト所^レ在^トありつるつるつるつるつる
時のつるつるつるつるつるつるつるつるつる
垂^レ通^レ無^レ方^トとつるつるつるつるつるつる
文^レち^レり^レに^レ有^レ方^トの^レ子^トを^レ表^スの^レあ^レり^レつるつる
吾^レ人^トと^レは^レも^レつるつるつるつるつるつるつる
一つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
春秋^ト一^ト子

の深衣賦より論語の要通了とありて心算
かゝく論語と虚言の鑑あるをれ中にも陽貨
の二篇と論語一部の曲節より一或と居服と
毛介とありて一將仕と一射宜の孫言あり或
牛刀と飽瓜の二章の詠笑の諷の沖文より一
子游より礼采の要を用ひて一子路より文質の和
説と一或と玉帛の措詞より孔子の表裏
とありて一或と朱紫の措詞と論語の以雅
と移より一或と無言の釣詠より一子貢
の辨入とありて一或と楚辞の作存と一
孺悲の一虚言とありて一或と食積之歸の
記名と孔子の一代の幾言ありて一章我はれ

一也智辨とありて一或と居服の表も井戸
の名も例し一懲惡の適當ありて一或と
七十二子と一七十二色の勸懲とありて一
或と博奕の一章も例の措詞とありて一
宰弔の懲惡のほくも一或と居服のあり
るも一或と女子と一或の二章のいふ一
の結文ありて一或と景伯の虚言と一或
は一或と後章の棄稼の嘆息ありん
たれど論語の元二篇と一或と居服の要通
より一何より一意必固我らや一或と
或と景伯の虚言と一或と景伯
為夷徳可欺而不可奪と一子貢と

の深衣賦

七

つと智慧し辨舌の花と云ふはと云ふの事あり
ありし不教誡あり例し文教の常用と云ふは
減し和厚の事と云ふは文教の差ふと云ふは
しる虚言の類の事と云ふは

其虚道理 け返し能諧の辨ある一人の事あり
たむくことと田の女の愛持しおゆるる言ふ言ふ
の事と云ふはと云ふは遊女の常地ある
金と全盛の客と云ふは一人負ふ力と云ふは
男とありむと人の事ありしと云ふは或は
さる舞妓子の事と云ふは或は或る事ありし
人の事ありしと云ふは或は或る事ありし
地持しと云ふは一人と云ふは

大名のおもひを時ありしと云ふは
言ふはむくことと云ふは或は或る事ありし
様癖ありありと云ふは或は或る事ありし
はむくことと云ふは或は或る事ありし
しる事ありしと云ふは或は或る事ありし
而んく事ありしと云ふは或は或る事ありし
いし事ありしと云ふは或は或る事ありし
夫婦と云ふは或は或る事ありし
しる事ありしと云ふは或は或る事ありし
はく事ありしと云ふは或は或る事ありし
利害の説しと云ふは或は或る事ありし

虚言見之虚言 白馬教誡訓しむる能諧の虚言

こゝから儒術の設くる内訌と例のたがひてくる
也とあるに虚言の虚言とあるを今く儒術
の内訌にもあつてけりと能言の設とある一
はてしなく意と虚言に言とある名利の用
とある虚言に虚とある名利の用とある
けりといふ天の支配してはよふかたの理とある一
世の山崎の先考も一貫抄の大綱に孔子の
虚言論ありて之をおのたふしとありて
論の類とありて孔子と儒術の之祖とありて
孔子の道と孟子にいひぬらうて孟子の論語の
再記ありてこれと虚言の設の例の似而非
ありといふ第一の訌とある孟子の二万章上篇

新編

九

孔子も周公も天子あるは天下
とありて孔子の言とありて孔子の虚とある
といふんをいふ天道のくもあつてあつた極の
一氣の動くおぼし物に虚言の二用ありて天
と虚言にいひぬく地と虚言にいひぬく人との
るもありて善と悪とありて善と悪とありて
これと善人の善といひぬくもありて善と悪と
いふこと善も善とありて善と悪とありて
此こと虚言の善といひぬくもありて五倫の差
ふありて父子とありて孝といひぬくもありて
美といひぬく忠といひぬくもありて虚言の善とある

新編

九

舟とまらぬのにはあつていふをいふはあつていふはあつていふ
虚言の論をきくもいふはあつていふはあつていふはあつていふ
虚言の虚言をいふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
こととあらう人向の世にほくもあらうはあつていふはあつていふはあつていふ
不化 能諧の常後よすはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
に敵一有る神の有と細の子の意ありと
此れの子と美と能諧はあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
る化も不化あつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
はあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
の老らるるをいふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
とあらうはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
はあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ

ありあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
とていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
多に能諧の虚言をいふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
りらうはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
とあらうはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
夫子の言はあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
孝行心 一貫おのれ益論よきに信不信の辨美
ありあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
あつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
可得大杖則逃走故不犯不父之回非と我
ちと信言の天よかあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ
てめちるといふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふはあつていふ

完唐書後井のじう一語といふ... 親の寔あるを... 困る... 儒書... 庚申のおの... 象の... 智恵... 誠偽の決断... 君子可欺不可... 論語の... 井仁の有無... 死すの論...

似即似是不是... 父子の信... 素而不得... 臆病... 能諧... 捷徑... 陽報... 貴田討の... 信... 陰徳... 忠義... 礼...

る...

...

其の洋やこれの談言とありて例の微中
とてつららるる

其實其虚 其虚と例のさ地あり世の中れ人々の言
いあむるをよりいさむとく虚をたれ 虚は証
かゝりていなり禅録の詞とありやうらの地獄地獄
とてつららるる提はさる地獄に在あくる周觀の返
答もさるる一もや畢まると地獄も極樂も虚を
も善惡心の所造ある免の皮中の地獄地獄
居虚行實 一對と我々の西文やさるるに
他への宗匠家より世詞と難しくさるる以れを
實とあり虚とあり一とて虚とさるる一實と
後とて一實の實のばりたむむいさるる一吾輩

の人此虚言に世の中めふはらけ遠あり能はる
今日の間とあり一實とあり虚とあり一實
の言ちらるる妻の言ちらるとり果あるる人の
我妻ととりありむむに我と妻の言ちるる
あり今日の虚とあり一實のくおれあり
一もやをたれと太福のありあり今日も我々の
虚言とあり本より又偏を虚ちら地とあり
妻の言ちあるもかみしてはるる人か我妻と
りてあそむむとて記し五偏の言ちとあり
てくふ指とてしはるるあり言ち我々の地獄
一とて世代とて又も五のふ此所作あるる
是非親疎 世對と世代の言用して是非

一人と云ふて親疎を以て云ふと云ふ一はけり
白馬の金言ありたるは是非の証しなり其好
は所し是と非の別一はけり此は是非の証
是ちる非いふなり非ちる非いふなり
之証を儒仲の連珠とあるなり法おの論
ちらしくあれども人間と云ふ非ちる中より
も是ちる非あり親疎はけりなり
とやせと云はれくの二道一は我家の能治
時世の代と建てる一は世の急用と云ふ
ことこれなれは儒よありと云ふ仲の
一人の鑄形と云ふことと云ふなり
建てることと云ふことと云ふなり一童子純

一巻一八字九字も云ふなりや之證の難疎
いそ解のたれくの讃と云ふ一は次は親疎
の証と云ふなり或は親と子の虚と云ふ一飯の
ちるなり或は時あるなり他人のありけり
なりあり或は親と子の虚と云ふなり千金
のちるなり或はありけりなり白馬のなり
と云ふありけりなり又倫の証と云ふなり
信言なり父子と兄弟と云ふなり道
の所近とあり美言なり君子と云ふなり
は君子有蓋の明なりありけり美言なり
一は美言なり君子と云ふなり信言なり

白馬の

其

功成而不居と云々と釈味のらわらざるに
いほの二子ちん人さうにけしきおとこしき
後の美理と信實とにけしき父子の信實に美理
とちん仲の仲と過さねらふとあつくさ
及らぬいふと一その喜怒哀楽の天のわらあつた
いふ事おと人わらとて又倫とあつた親疎
二虚実のあつたふたれた世をさく夫婦のなほ
三にさるる二虚実とにけしき人あつた親子
兄弟のほとちんいふさういふさういふ
れ智とあつた論議の和同れ節と孔子の
執事とあつたいふさういふさういふ美の
あつた和と公私の事とあつたいふさういふ

けたの差ふらと白馬の教誡のさう用とて信
仰も信とせん仲と徹中と解法とこれ
の執事と信用と一
仁義好悪 一貫抄と論ありに多と好悪の
善とふらと齊の善仲と二君と臣と一と
れ子の論議とちんいふ説の作事と二君と
臣とさうとあつた論議とちんいふ善と
仁美の用とさういふはと善とあつた善と
く善とさういふあつた善と一かつた善と
仁美と道のほとさういふ仁とあつた善と
あつた善といふ仁とあつた善と
善人の善とさういふ仁と善人と善人と

仁義好悪

善人

仁中の義と云ふ一と我らつとを白馬、兼道は
仲おの仁義論と評してけし仁義の徳をの度ね
らうて凡庸のふもか論ありきるんれ子の
家けよん仁義の所居とけらるる或い言ふ
向れよも或ん子言ふ論れも儒の仁の子
とより道の根えと云ふのきりきりいれ子
の建流とてこれの考の愚あれも世に
よくよくいふもあらん及ていふあんまれ
なりといふ忠義といふ徳冠といふ射御と
いふ食御食のれやともいれん仁義の形
言ふと云ふ一徳徳といれ所の和節といふ
と徳と徳といふやれも論諫のよむれん

かく不れ一詔諫の和と云ふ仁義の實
さるより世をく例の疎祖と云ふて一分八向
のそつらあれいれも尚あらん一
も論のさ地と辨とい徳徳といふ
とありて今のれと云ふ一その一子録の
大幸と云ふんや

か實所無 世説と 禪家の眼目よりて言は不
到の遺訓あらん誠は世界のあゆり相とは空は
ありといふやと云ふ一も空と云ふ一ありあ
三蓮部の邪と云ふ一似て探着さるる一不
けな一結文といふ虚の字は二在の字と云ふ一
善と云ふ一と云ふ一虚とあり善と云ふ

みねの

可と虚もなきとあんと應無所任のらと
はとふくやちかひのたかた子らに
のらとけのたかたやちかひのたかた
しく傳書とも所種ともるちかひ

傳曰

言説、表裏、けいご、中、之、後、の、言、説、の、表、裏、的、な、れ
ともなきふん、たかひ、の、説、ある、ふ、と、る、く、一、き、い、ん
儒、仏、の、お、よ、き、も、表、の、二、万、の、一、を、た、か、く、さ、め、と
も、裏、の、一、万、と、さ、る、け、い、文、字、の、う、ち、か、い、け、い、約
も、い、ん、く、な、る、の、ま、れ、ち、り、傳、子、の、く、も、も
向、へ、た、い、ん、一、文、不、通、の、能、階、師、の、ま、も、ち、ち、も
く、此、深、に、沖、と、も、字、文、の、は、備、と、い、ふ、一、ま、も、

耳とたかきき一乃巻の表とすむいり同とぬか
て一即の裏とさくくくくはれと、言、説、の、表、裏、
く、い、ん、く、な、る、の、ま、れ、ち、り、あ、れ、く、類、回、と、さ、い、と
氣、は、い、ん、く、小、人、之、言、有、同、字、君、子、者、不、可、察、と
と、い、ん、く、一、に、君、子、以、行、言、小、人、以、言、言、と、さ、い、と
夫子の返答と例の表とすむいり、れ、子、の、道、
子思の三子と察の三子と、い、ん、く、一、作、常、と、子、向、と
い、ち、も、た、か、ひ、り、ち、り、あ、る、言、説、の、察、も、察、も、自、己
の、境、極、と、も、た、か、く、な、る、一、句、十、知、の、く、も、一、
迂、詐、之、真、言、持、き、ら、い、け、二、句、を、け、い、く、虚、實、の、
虚、實、を、た、か、く、さ、い、の、虚、實、を、い、ん、く、一、
の、虚、實、を、た、か、く、さ、い、詞、の、買、詞、の、誠、信、の

河津とてふ一とて虚言ありも言ふ虚言
も早言とて言ふとある付よき一或は迂詐
の真言とて言ふ論詔よ牛刀の戯あり孔子の
詞よ迂詐の戯とて一夜の時言ふ言の
子游の言文のゆけあるとある言の真言
取ら真言の迂詐とて言ふ法老の角権頭
あり和迦の詞よ今やその方便とやとけ
の真言とて言ふとて八万の聴ふとて
の言一方はけとて言ふ迂詐ありぬ
よとて言ふとて言ふ不説とて言ふ
虚言の虚言とて言ふとて言ふ傳傳の言
も言ふとて言ふ論の十段とて言ふ一毛と

説くことあり

識文口傳

識文口傳 識文とて未末記あり漢よも虚
の危かきとて言ふの隠ありとて言ふとて言ふ
とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
大臣とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
與とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
ちとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
の危とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
子産の遺言とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
政のありとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
相濟政是以和とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
いとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ

の言

の言

むらり秋りまらばる連流のちと洞
一してつれも暮まら暮秋とるん今んり
子よ流のあしとほげてこちの可作
後流とんせらるそや流流のこととて
能流之連のきりけりあしけれと遠行類
とあゆ 早まらるる流の論也

連歌不知 西平同答て了連歌の抄とる能
轉物則同如来とて子孫文といふて妻化自
在のよとてりもまら物と轉をりて物と轉を
らり差ふありけり連流とてりまら言は
毛おの雲と辨と仰め物と轉をりて
俊和合の流ありけり流とてりまら言は

常も物とてりけり流ありあけり物とてり
あし連をりてあし流とてりて推
後らりやふらとてり家の所よあてり

耳目明暗 白馬文章訓は能流とてり
耳目とてり物とてり推とてり
と隔ててり物とてり推とてり
くけりてりてりてりてりてり
人の耳目とてり物とてり推とてり
目とてり物とてり流とてり目とてり
ありてり流とてり推とてり
上りてりあてりてりてり
耳目とてりあてりてり流とてり

の流あり

おきてはむけをたけしむる物を馬より居とし 淋
ぢりて後よきかしくりかたは位母より婦も尼
ゆりもこの業化のりるるこそと眼と見と
一子より家の貧福も人の多かむをとおのり
も静静のちりひもあく者おのりさるる
例の垣梅人ら眼むらむと見ゆるもこの詞と
をふれもなれともおのりあふりよこの一子
一語よりゆかりの梅とゆあふり言決の業あり
おのりもこの親の氣もあふり市の位も
とらとさくいともらにきりよめと親の氣もあ
りぬちりりのお師よ言傳い二句とちのよめ
かたりきりゆるとあふりあふりあふりあふり

おのりあふり

おのりあふり

温

きりちり子と幸も十八れり 野鐮のついで
かりちりり在あふり二二のりあふり
七の市場の町とあふりたのり銀とあふり
何連ともさくも市の位ありと親とせむ
さゆとるる一もさふりもさふりも十二と
りりあふりあふりあふり社らあふりあふり
なふりや野のあふりあふりあふりあふり
とあふりあふりあふりあふりあふりあふり
一もさふりあふりあふりあふりあふり
かかこのりあふりあふりあふりあふり
世代の機軸もさふりあふり

故知新 先後おのりあふりあふりあふりあふり

おのりあふり

おのりあふり

ふんに例の事作るの時習に真而毎有新得
則可必厚人師して何と新し得たるや
論語人多識とすや一と耳聞の事とあり
人の師とらるるに子あるとてらちりてあせ
ちたけ親と業ある人の知と授く人ある
のりあるにせらるるにちとらちりたる人の
とらちりたるにあらん新とあせんとす
茶と飲むるにあらん新とあせんとす
この事とあらん新とあせんとす
とらちりたるにあらん新とあせんとす
の師とあらん新とあせんとす
師とあらん新とあせんとす

言語形容 捷事 好事 詞 史 索隱 詞 捷 之 亦 史 子 不 失 詞
猪先生 詞 好事 者 讀 之 以 游 心 駭 耳 史 記
ふにこれの事とあらん新とあせんとす
言語形容 捷事 好事 詞 史 索隱 詞 捷 之 亦 史 子 不 失 詞
猪先生 詞 好事 者 讀 之 以 游 心 駭 耳 史 記
ふにこれの事とあらん新とあせんとす

物の形容と危下の段とやうな詞の形を
之類の論とあつて我れオセの譯の又論と
見ると一は此ある人の席とくお向の俯仰起つと
論と申に外をれを揚たのさるん強しと
一人くの附合あつてあれとさるぬい染のさる
一とつるおのゆらやふむとさるるう揚たの
世ちとあつていさつらと左敷のめさるも
遊女とおをくあをむげと常とあつて
をこの形とらうと戸膝とさる様とあつて
さういさおの形容と糸とさる腰の珊瑚
珠とさるさる二の遊人も甲とさる
減と論説とさる論法とさるや傾城

又世の強ちとさる節守の釣簾と芝床
のおもひ心とあつて附向の古とれお向の作
人とあつて一と奇言怪説とあつておの
はる世論の早きとあつておの詞のさ
とさる一とさるおの詞とあつて一とさる
事おらう言説とあつておのさるさる

中六段

曲節地 遺稿の師説と曲節地のと辨と向作と
ありと趣向とあつておの地とさるさる曲
節と時と自在とあつておの曲節と晴景
とつて月次のさるさるさるさるさる

業も一うとてたけ比ある巻にう標の色と
奪ふたりおちぢりぬよと家の名と比け
こふ才この所合よと辨の距離あり刺るより
新しとるけ句をりおふ所を標のうら
かひてあり作るより降してなる他程の
尾も懸え所のおよやと判者云ふのうら
他程の業の方とやとをよと強物の所合
ひふ下も標とたよとけいふとてたて
系はあのみも為帯のよあも一眼界よ深
たよ尾の懸のうとあさるに及ふとけの
とこ中いふもあるん耳とよりす人の標
いふは子あはれ當季のちぢりてはしあ

まねく句はゆりおの目よとて家のあつらと
けりしとて我句の作しとふ句の用よあつ
かくのさきとふ句とけしとてけまのさ
かたはる業と世界の耳よとてあ言能程と
ありあし一はらとて曲節とあつらと
あつらと曲節とあつらとあつらと地とあつ
かくたれとせけしと辨のけつとふと熱向
例のちぢりしと句作しと辨のさふとあつ
才よと地のよとせぢぢの壺次へ本殿とあつ
てほよと地めつとてちぢぢの壺次と標
のうらうらとあつらとあつらとあつらと
のほよとあつらとあつらとあつらと

九條

九

いふ所存しよふをきく道ゆとせりあふ
あし道といふらあふあうく知有能自知と
い例の表裏とまかぬいりせなる内はとてんは
うくをふを仁義と道の言へり禪のい
推論とせの言へりうの事言くと曲節の法所と
まゝいりせらるるいりていりていりていりて
のう便ちいりていりていりていりていりて
とらういりていりていりていりていりて
すまやれよのいりていりていりていりて
らせりていりていりていりていりていりて
宗の高買ちりていりていりていりていりて
禪との寂實心まらういりていりていりて

みゆか

九

佳あくと辨とていりていりていりていりて
所くいりていりていりていりていりて
はらうていりていりていりていりていりて
とまらあふりていりていりていりていりて
所く所あといりていりていりていりていりて
て所あといりていりていりていりていりて
道心 持もつたいりていりていりていりて
の詞といりていりていりていりていりて
いりていりていりていりていりていりて
有恒人とらるるいりていりていりていりて
これの専ら恒とていりていりていりていりて
おあといりていりていりていりていりて

あゆみ

九

と耻しくあまをたふし所と云ふ如く一はなり
儒書も佛經も其時そ人の用うして勸懲
いかにの啼をやせらるちなり
十年道 梅もらん此段の流り二十年道は
還ししと月日のかきさらしと云ふも此種
りも九十刹那と一念の間の往來あり人の心
の如く對する時と 初念いそ一りさらるおあり
りけしとそえのくも時と時よりゆりてをんを
つし流りきくふと馬人といはれとと打却て
世のふあをふと能讀の詞を編んてふ世界
の字もあをたふと知んてく様根といはく
金銀といはくややくもと并と起てとら流り

五作ありて道の流りともあはる居るもせが
い流の一念より二段のんれ差ふとあはるは
変とおろし一はり往來の往來と一はり
國もさうちとさうし附合し打却のそといのし何
るれんくくの趣向と云ふらるる或は懸念の世を
あり 或は秀の衝う鼓と事とてたの趣向と
二ありとさうちとさうしを平よとありてこれと
所余の飛句と云ふ趣向とあはるありと詞の
表裏に飛活あはるえと下 亂世と事とて
とて一仲間と巴と母とたうせととも軍とて
回備も具とてたうてと例とさぬとめ
曲節とたうとて飛活の備とてく終る也

あまの年

九八

と所たれどあともまほしきかへりてまほしきとて
二あるがごとく入用なき十二種のよしあるは
よ一能浩の二およと失つてまほしき言の
かきまへて疑のれと向中よはくまらたこと向作
の功不功一て教向の功静一はめさ不強ん

傳曰

蓋思 極まらぬけ静と対直の二訂一論をてははく
一て蓋思のゆ下と文格の解あり言ひ万巻の
書とありて文と教よのそとと辯と儒家の
論詠よ文章の虚とおきまひ仰の代筆に
教誡のまゝとあるゆへにまほしき書をたれまほし
けまほし文とそよあひて其の形容とを非

あつれおのゆ福と韓文よはくまらぬと金ひは
つゝまらぬとて文教とけいふ家とあつて一
まらと能浩の決まらぬ家のゆゆとてあつて
懲りてけいふ儒師の正脈とけいふ勸のけい
今様の竹解よりまらぬ一まらぬ儒書といふ師
いふ人の氣のほまらぬと地獄あり人のあら
い極楽あり何とて今様の境界とてまらぬ言
法とてまらぬ文章ありといふ今よ一子録とい
つらまらぬ一雅俗のちとていふ一論の起結と
つら文章の虚をよとまらぬまらぬと能浩
の字をあら文の雅俗と師授とていふ一
四六文法 文式よ四六のまらぬと子と對一

四六文法

子孫

と對し、意と對する字、教と對するは、たゞの言
六言、一の如きも、或るに、或るに、或るに、或るに
と、八の如きも、前長後短の拍子とある一、或るに
と、一の如きも、一、又、一、の如きも、一、或るに、
奇偶の用と、或るに、或るに、或るに、或るに、
一、二の拍子と、一、二の拍子の雅俗と、或るに、
は、たゞの言と、漢魏の向より、李唐の世も、
中れ、趙宋の比、たゞの言と、或るに、或るに、
疏類、一、用、一、用、一、用、一、用、一、用、
一、格、一、王、一、勃、一、滕、一、王、一、園、一、の、一、文、一、勢、一、も、
能、一、清、一、所、一、と、一、濁、一、め、一、一、達、一、一、の、一、凡、一、骨、一、あ、一、ら、
一、禪、一、宗、一、の、一、虚、一、を、一、あ、一、ら、一、つ、一、り、

